

## (1) 1957年度漁撈部の試験研究の概要

### 1. 海洋の調査

前年度よりの継続事業として実施した。毎年民間船を備船として試験調査に当っているので所定の調査研究が出来ず観測は表面水温と比重とその他海況気象の状況に重点を置き基本的定点を定めず漁業調査の往復又は漁撈中実施した(観測表参照)

### 2. 鯖はねずり漁業

前年度より継続事業として実施した試験船が小型30トンで冬季の手節風の強い時は操業出来ないのが本年は餌料の節減方法として勝家巻餌料による鯖はね釣試験を2回実施した。その結果稍々良好であつたので成果がはつきりするまで試験を実施する。其の他に於いては前年同様である。

### 3. 回游魚(さんま、するめいか)

前年同様「さんま」5回「するめいか」1回調査を実施したが之も昇化のため初期の目的を達成することが出来なかつた。

### 4. さつばいわし調査

本調査は八重山で掃受網による採捕試験で成果を挙げたが蟹の餌料としての活力試験が必要であるので本年トカギキで行つたが器具不揃いのため活力試験までに至らなかつた。

### 5. 鯨餌料の集魚及「水するる」活力試験

鯨漁業は重要な漁業で従って「水するる」の調査研究も毎年実施しているが試験船の設備不十分で1回調査しただけであるので引続き調査する計画である

### 6. 鯨の回游状況調査

本年初めての調査で2月21日に慶良間、渡名喜、久米島沖合で1日5頭の座頭鯨を1月24日~1月29日の調査で6頭発見しているので琉球近海には相当来遊するものと思われる。

## (2) 鯖釣漁業調査

1955年度以来の継続事業として実施した。

### 1. 事業の方法

- |        |                    |
|--------|--------------------|
| a 使用漁船 | 漁業丸(30屯無注水式焼玉65HP) |
| b 漁法   | 鯖釣                 |
| c 漁場   | 東支那海               |